



平成21年度 福祉作文・ポスター・標語コンクール



入選おめでとうございます

主催：社会福祉法人
大崎市社会福祉協議会

〔作文の部〕 最優秀賞 上野目小学校 五年 遠藤 瑠奈

ぴいばあちゃんの介護を思い出して

私は、介護のテレビを見て、七年前に亡くなったぴいばあちゃんのことを思い出しました。私が四才のころのぴいばあちゃんは、病気で倒れ、十二年間介護されていました。

左半身が不自由で自分の力では動くこともできず、自分の身の回りのこともできませんでした。そのため、祖父、祖母、母は、いつもぴいばあちゃんの世話をしていました。

祖父は、ぴいばあちゃんを一人別の部屋でねたきりにさせるのはかわいそうだからと、いつもみんなと楽しく会話ができるようにかかえて茶の間につれてきていました。

祖母は身じたくを整えてあげたり、食事、オムツ交換などをしていました。母も見よう見まねで、祖母に教わりながら手伝っていました。

その光景を見た私は、まだ四才だったので（大人なのにトイレに行かないでオムツをとり替えてもらっているんだ）と私は小さいながらも不思議に思っていました。

私が今まで見て来たことで、一番大変だと思ったことは、入浴の時です。母と祖母の二人でぴいばあちゃんを湯船に入れていました。湯船に入れる時も、体を洗う時も、二人でおさえながら湯船に入れていました。今になってみると、ねたきりだったぴいばあちゃんの介護の世話をすることというのは、すごく大変なことだと思います。

介護をする側も、される側もその立場になってみると一番大切なことは、「思いやり」ということに気がつきました。「思いやり」ということは、人にただ優しくすることだけでなく、相手の気持ちになり、優しく接して、温かい気持ちで介護をするということが分かりました。もし、家族の中で介護が必要になった時、私も祖父や祖母を見習い、介護に役立ちたいと思います。

〔作文の部〕 最優秀賞 鳴子小学校 六年 大崎 かれん

キャップハンディ体験学習に参加して

私は、先日キャップハンディ体験学習で、仙台にある盲導犬の訓練センターに行つて来ました。

参加した理由は、家に盲導犬と同じ種類の犬がいます。もし、家で飼っている犬が盲導犬だったら、どんな訓練をしているか興味を持ったからです。

訓練センターを見学して、おどろいた事が二つあります。一つ目は、犬が楽しく訓練している事です。体験学習に参加するまで、私は盲導犬が厳しく訓練を受けているのだと思っていました。しかし、実際に訓練を受けてみると、犬も人も、ボールなどを使って、楽しく遊んでいました。人は笑顔で、犬はしっぽをふって、うれしそうでした。家の犬も、この訓練だったらできさうだなあと思いました。

二つ目は、訓練センターで目の不自由な人が、訓練を受けているという事です。私は、訓練センターでは、盲導犬だけが訓練しているのだと思っていました。しかし、センターでは目の不自由な人が訓練をしていました。訓練の内容は、パソコンのキーボードを打つ練習をしたり、料理を作る練習をしていました。私は、目の不自由な人も練習をすれば何でもできるんだなあと思いました。

アイマスクをして歩く体験もしました。アイマスクをしたら、何も見えない真つ暗な世界でした。何も見えないと、こんなにこわい事なんだなあと思いました。

目の不自由な人が私ができる事は、二つあります。一つは、目の不自由な人がこまっていたら「どうしましたか」と声をかけて助けることです。もう一つは、今盲導犬が足りないのです。盲導犬の募金などに協力することです。

今年度は、鹿島台支所・岩出山支所・鳴子支所、それぞれの部門にたくさん応募いただきました。前号に続き、〔作文の部〕最優秀賞作品をご紹介します。